

## 令和2年度 横浜カレッジ 自己評価報告

### 1. 実施方法

自己評価については、平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。 ※別紙: 令和2年度 横浜カレッジ 自己評価表  
以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

### 2. 評価項目の達成及び取り組み状況

#### 2-1. 教育理念・目標

##### (1) 教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル、ジュエリー分野の人財育成に取り組んでいる。

##### (2) 将来構想へ向けた体制

2027年の岩崎学園100周年を見据え、中期事業計画「One IWASAKI 2027」が策定された。中期事業計画は、学生・園児・教職員にとって『楽しさ』の仕掛けづくり、『発想力豊かな人材』の育成、迅速で無駄のない『グループ経営』の推進、『新しい事業』の構築を方針としている。それに伴い、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト(IR推進委員・基盤教育・オンライン教育・国家試験対策・教育環境整備等)が組織され、本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。

#### 2-2. 学校運営

##### (1) 運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し、教育活動を行った。(参照: 自己評価表 P1)

令和2年度の事業計画は、個人の業務計画・目標にも落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。グループリーダーとの面談を通し、教職員の育成にも傾注した。

##### (2) 情報のシステム化と業務の効率化

オンライン授業の導入に伴い、プラットフォームとして Google Classroom を活用していたが、本学園全体でオンライン授業の導入が進んだことから期中より、オンライン教育に対応した新たな LMS (Learning Management System) を導入した。教育データを蓄積できる状況になっているので、今後は教育効果を上げるための具体的な活用方法を検討し、日々の授業に反映することが課題である。

##### (3) 働き方、健康管理

健康管理について、これまでの人間ドッグの費用補助制度に加え、令和2年度よりがん検診についても費用補助制度が導入された。また、新型コロナウイルス感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るために、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークの推奨を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液の常備に加え、教職員を対象とした抗体検査や、教職員と新入生希望者に対して PCR 検査キットの無償配布を行った。

## 2-3.教育活動

### (1)教育課程の編成・実施方針

- ①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」の見直しを行った。
- ②3つのポリシーに加え、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」は、学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。
- ③年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

### (2)オンライン授業の推進

新型コロナ感染防止や緊急事態宣言の発令を受け、本学園の新たな教育の特徴として、急速にオンライン授業の推進が図られた。本校においても、オンライン授業の推進にあたっては、教材のデジタル化を行うとともに、教員間の教材共有や学科を越えた教材共有が活発に行われた。また、試行錯誤を繰り返しながら、座学授業はもとより実習授業についても動画教材を作成・活用することで、全科目数の96%でオンラインを活用した。次年度は、オンライン・対面・ハイブリッド等、それぞれのメリットとデメリットを踏まえ、授業計画に活かしていく。

### (3)令和4年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討

令和4年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。

令和2年度は、令和3年度から学内共通科目として導入する3科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」のカリキュラム開発を進めた。これまで、学科ごとで運営していた科目を統一し、本校としての到達度を標準化した。なお、「クラスアクティビティ」においては、学科特性を最大限に活かした主体的、機能的な活動時間に変化している。

### (4)産学連携・インターンシップの体系化

コロナ禍ではあったが、これまでの実績を踏まえ、継続的に実施できた産学連携やインターンシップが多く、学生には実践的な学びの場となった。また、産学連携からインターンシップや、採用に発展するケースもあり、学生の意欲向上にもつながっている。

産学連携の取り組みの形態は様々だが、企業提示の課題に企画段階から参加し、実社会で商品化される等、実践的な内容の取り組みも定着してきている。また、環境問題やヘッドネーション等、現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組みも継続できた。

#### ①企業提示の課題による産学連携

- ・近沢レースとのコラボによるエコバックのデザインと商品化
- ・横浜高島屋ジュエリーブランドとの連携によるアクセサリー商品のデザイン制作・販売  
(平成29年度より継続)
- ・エイベックスのアイドル衣装制作
- ・雅叙園東京提携婚礼衣装デザイナーとの和ドレスのデザイン・企画

## ②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

- ・NPO と連携、熊本の震災時に使用されたブルーシートのリサイクル活動への参加
- ・横浜実践看護専門学校・NPO キャンサーリボンズと連携、乳癌患者へのヘアドネーションへ協力
- ・多様化する社会と美容のかかわりについて、(株)ミライロと連携。ユニバーサルマナーに対応した美容サロンリサーチを行い岩崎学園教育成果発表会で報告。

## (5)学園横断的な学びの場の創出

本学園の中期事業計画に基づき、学園姉妹校との横断的な学びの場が創出された。令和 2 年度は、アイデアソンや、タイガーモブ(株)と連携した国際的な視野を養うセミナーがオンラインで開催され、学生から好評を得た。

## (6)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施している。コロナ禍ではあったが、オンラインによるセミナーを積極的に活用し、研鑽を積んだ。また、教職員の資格取得奨励制度を平成 29 年度より導入。令和 2 年度は、延べ 15 名が新しい資格を取得した。

## 2-4.教育環境

### (1)施設・設備

コロナ禍の中、本学園のオンライン授業推進の方針のもと、既に学生にノート PC を貸与していたファッション系 3 学科に加え、美容系 2 学科、ブライダル科の全学生にノート PC を貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えた。

令和 3 年度に向け、就職活動におけるオンライン面接等に対応するため、学内に個室型ワークスペースの設置を計画した。

### (2)海外研修

新型コロナウイルス感染拡大により、例年実施していたブライダル科のハワイ研修は中止とした。

## 2-5.学習成果

### (1)内部特待生制度

令和 2 年度より、本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に、「内部特待生制度」が導入された。内部特待生は、学内イベントはじめ外部コンテスト、インターンシップ等への自発的、積極的な参加を通したリーダーシップの発揮や職業人への成長を期待され、当該年度の学費から 40 万円が免除される特典が与えられる。

- ・令和 2 年度の内部特待生: 8 名

内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンはじめ、様々なプログラムに参加。知見を広げたトピックとしては、コロナ禍で IT を活用した情報発信力がますます重要になる中、内部特待生が自主的に企画してインスタライブを行い、学校情報の発信に貢献。インスタライブを見た下級生が、令和 3 年度の内部特待生に立候補するなど、効果的な連鎖につながっている。

- ・令和 3 年度に向け 10 名の内部特待生を選出した

## (2)就職実績

### ①就職状況

進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する就職指導部と学校とが連携し、学生の活動をサポートしている。

令和2年度は、コロナ禍により、本校関連業界が、大きなダメージを受ける中、求人数が減少。

就職指導部では、エージェンシー主催の合同企業説明会が次々と中止となる中、これまでつながりのある企業と交渉し、本校独自のオンラインセミナーの開催や、新規企業の求人開拓に努めた。

学生全員にノート PC が貸与されていたこともあり、企業の採用活動のオンライン化にも即応できたことは、就職実績に寄与したと考えている。

また、学生はコロナ禍だからこそ正社員就職にこだわり、粘り強く活動を続ける者が大多数だった。

#### 【令和2年度就職実績】

・就職率:93.2%(就職希望者264名、就職者246名)前年度97.0%

・就職希望せず:35名

内訳:専門業界アルバイト11名、アルバイト11名、進学希望1名、美容師国家試験不合格2名、  
Uターン3名、健康課題等2名、その他5名

・来校型、オンライン型の本校独自の企業セミナー開催数40社、開催企業に55名が内定。  
(前年度72社来校、92名内定)

・就職未内定者に対する卒業後の就職支援制度が創設された。

令和3年7月8日現在、17名が活用し、内3名が就職。14名は就職活動を継続しており、引き続きの支援を行う。

### ②選抜強化学生

平成30年度より、継続して実施している。選抜強化学生は、学業・学生生活・PROGテスト等を総合的に判断して選抜を行い、優良な企業業績に加え、働き方改革を踏まえ、待遇や教育制度の整備されている企業を推奨企業とし、就職指導を行っている。同対象学生には、特別就職対策講座や社会人基礎力向上のためのセミナーを実施し育成を行っている。

・選抜学生37名の内、34名が就職。内10名が、8社の推奨企業に就職。

(前年度:選抜学生47名全員が就職。内25名が25社の推奨企業に就職)

## (3)資格取得・コンテスト

### 【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

#### 【ビューティースタylist科】

①美容師国家試験合格率79.4%(前年度92.6%、全国平均85.1%)。

コロナ禍でオンラインを併用した国家試験対策となった。登校が制限される中、実技、筆記とも習熟が遅い学生の引き上げが不十分で不合格者を出してしまった。

令和2年度、国家試験不合格者に対し、卒業後も国家試験対策を実施する制度が新設。本制度の活用やスマートフォン用のアプリを活用した筆記試験対策の引き続きの配信等で、夏の美容師国家試験に向け、不合格者のフォローアップを行う。

②昨年度、導入した「ユニバーサルマナー検定」は、オンラインのセミナー開催と併せ実施。

- ③令和2年度は、サロン勤務で役立つ、正しい毛髪診断や適切なヘアケアアドバイスのための知識習得を目的に、「ヘアケアマイスタープライマリーコース」資格を導入。合格率は79.1%。受験者は、1・2年合わせて67名。初年度としては、実績が出せたと考えている。

#### 【ビューティーコーディネーター科】

- ①メイクアップコースでは、美容部員として必要な化粧品関連の知識を深めるため、2年次の検定の取り組みを強化。日本化粧品検定1級の合格率向上に繋がった。  
日本化粧品検定2級合格率62.8%(前年度61.9%)、1級合格率87.0%(前年度42.8%)
- ②エステティックコースでは、認定エステティシャンを13名が受験し合格率は76.9%。  
上級認定エステティシャンは6名が受験し全員合格。
- ③ネイルコースでは、大手ネイルサロン就職の条件であるネイリスト技能検定2級は、23名全員が受験し合格率は95.6%、JNA フットケア理論検定は22名が受験し、合格率は95.4%。

#### 【ブライダル科】

- ①サービス接遇検定準1級を1年生全員が受験し、合格率は77.6%。(公社)実務技能検定協会から団体優秀賞並びに個人最優秀賞の表彰を受けた。
- ②国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級は、これまで2年次の受験としていたが、令和2年度生より1年次で受験できる体制を整えた。これにより、2年次に2級資格を取得することができるようになり、学生の資格取得への意欲向上につながった。  
今年度は、ブライダル科の1・2年生全学生が受験し、合格率は90.3%(全国平均67.0%)の実績。

#### 【ファッションライフデザイン学科・ファッションビジネス科】

- ①ファッションライフデザイン学科マネジメントコースでは、Webクリエイター検定に4名が合格。
- ②ファッションビジネス科では、平成30年度に導入したインターネット実務士補の資格を3年連続で2年生全員が取得した。

#### 【コンテスト】

コロナ禍の中でも学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

##### ①ファッション系

- ・ファッションライフデザイン学科3年生の3チームが、第17回ビジネスユースコンペティションに入選。1月に行われたプレゼンテーション動画による最終審査会に出場し、3チームとも入賞。本コンテストのエントリーは4年目となり、学生の目標として定着。令和2年度は、3チームとも実物制作をし、プレゼンテーションを行うなど力作だった。
- ー準グランプリ: ~災害時における防傷と防寒と防水「スリッパ gyu ギュツ」~
  - ーマーケティング賞: ~「Chetta チェッタ」あなたを助ける避難用座椅子~
  - ーアイデア賞: ~災害時に自身を守る肌着 「Familiar inner(ファミリアインナー)」~

##### ②美容系

- ・TAT Nail-1 グランプリで、ネイルコースの学生がグランプリと準グランプリを受賞。
- ・ケサランパサラン 2020 フォトコンテストで、メイクコースの学生がグランプリを受賞。

#### (4)退学者

退学率 7.5%(前年 11.3%)

オンライン授業や分散登校が中心となり、学生間や担任とのコミュニケーション不足による意欲低下や退学者増が懸念されたが、IT ツールを活用し、アンケート配信やオンライン個別面談(含む保護者)を実施することで学生状況を把握。学生・保護者との繋がりを強化し不安解消に努めることができた。

しかしながら、業界の業績悪化が顕著になり職業の将来性に不安を感じた進路変更、両親の失業やアルバイトができない状況による家計圧迫、精神的な不安からの精神疾患の再発、地方出身者の帰省、遠距離通学者が電車に乗れない等、コロナ禍の影響による退学が少なからずあった。

令和3年度は、「つながり」を意識した取り組みを多く実施。Slack の導入による、学科・学年を越えたコミュニケーションの活性化を促し、Zoom を活用した個別面談やオンライングループワークを継続。また、新入生に対する歓迎の思いが伝わるような学内掲示、楽しくスムーズな学校生活を送ることができるようきめ細かい指導を重視し、取り組んでいく。

### 2-6. 学生支援

#### (1)学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。

#### (2)経済的な支援

・オンライン教育の導入に伴う家庭での負担軽減のため、「通信環境支援金」として全学生に1万円を支給した。また、コロナ禍で家庭の収入減や、アルバイトの機会が減少したため、学費、教材費の納入期限を延長し、特例的な分割納入も認めた。

・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。初年度の対象者は、全体の9.3%だったが、制度の浸透とともに割合が増えることが予測されている。制度の手続きが煩雑なため、学内の運用の整備、学生事務の整備が課題。

・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。経済的な理由による退学は14%。

【学費支援策利用状況 人数は延数】

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	11名	9名	9名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	369名	323名	277名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	186名	202名	145名
日本学生支援機構(給付型)	122名	72名	6名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*令和2年度より	120名	72名	—
学生支援緊急給付金	—	51名	—
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	8名	8名	8名
国の経済的支援のあり方に対する実証研究(学費減免型) (岩崎学園学費減免制度併用)	終了	3名	5名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1名	1名	1名

### (3)保護者との連携

今年度は、ホームページ上に「新型コロナ感染症に対する本校の対応について」ページを作成し、その都度、必要な情報発信を行った。

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて発送を行った。また、ビューティースタylist科では、毎年、国家試験課題発表時に対面での保護者会を行っていたが、今年度は、オンラインで実施。実施後一定期間 YouTube にて配信を行った。

### (4)防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

メールによる緊急連絡網「ビューン」を活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設け対応。

## 2-7.学生の受け入れ募集

令和2年度生より、入学定員数を160名としたビューティースタylist科の令和3年度生入学希望者の出願数は162名。入学者数は157名となりほぼ定員を充足した。

令和3年度入学生は、460名(前年438名)で堅調に推移している。

コロナ禍の中、対面形式の進路活動の機会が減り、職業や学校の学び方への理解不足が生じる可能性があるため、イベント実施内容や定期的に発信する情報について、職業や学校の特徴の理解を促すための工夫が必要となっている。

## 2-8.財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

## 2-9.法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県での認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。

## 2-10.社会貢献・地域貢献

### (1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

横浜実践看護専門学校と連携したヘッドネーションへの協力や、熊本の震災で使用されたブルーシートのリサイクル活動等を継続時に取り組んでいる。令和2年度は、SDGs等をテーマに活動するサークルを設立。学生が主体的に活動できる環境が整いつつある。

コロナ禍の影響もあり、年度当初に予定していた社会貢献や地域貢献の活動そのものが中止となってしまう、活動の機会が減少した。

### (2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

高校生向け講座「仕事のまなび場(4講座)」・「総専協夏季公開講座(2講座)」・「服飾・美容分野単位認定講座(1講座)」、鎌倉湘南地区高校連携講座「ブライダル関連のキャリア教育」など、複数の講座を予定していたが、コロナ禍の影響もありすべて中止となった。

以上